

今や先生は亡い。先生の後につづく日本の幼児教育にたずさわる私達は、ただひた向きにこども——日本のこどもの為に精魂を打込んで進みたいと思う。

先生が残された日本の幼児教育の礎石の上に、美しい真に日本のこども、の健康と幸福が打建てられる様に決意したい。

日本のフレーベル、倉橋先生。我等の恩師倉橋先生、どうかいつまでもいつまでも、天の彼方から私達を見守って、私達の行く途をお教え下さり御指図下さらんことをひたすらに祈りつつ筆をおくこととする。

(一九五五、五、一三・神戸大学教授)

## 倉橋先生を偲びて

内 匠 ち ゑ

嗚呼、今は亡き倉橋先生ノ 先生が、去る四月二十一日奇しくも幼稚園の創始者、フレーベルの誕生日に、御年七十二

才をもって、突然御逝去遊ばされたことを知りましたのは、翌朝の新聞でございました。あまりのことに私はしばし呆然としてしまいました。

思えば私達保育者の大先輩、望月クニ先生を八十八才の御高齢ではありましたが、二月四日に失い、ここに又我が国幼児教育の大指導者でありその第一人者であられた倉橋先生の御逝去をみましたことは、全国保育界にとりましてもその損失は実に大きなものであります。

先生はお茶の水女子大附属幼稚園主事としての多忙の御身の傍ら、各地の講習会、講演会に御苦勞を頂きました。御講演を拝聴する私達は先生の巧みなお話しぶりに暑さも忘れ眠気もふっとんで聞き入ったことは今もなお目前に浮んで参ります。誰かの話に、あんなお偉い先生でもちゃんと原稿をお書きになってその上、このところでしゃれる……等と「注意書き」が入れてありましたとか——何時も聴衆をうっとりさせられた印象的なお話ぶりとも思い合わせ、先生が如何に御熱心にお話下さったか、そのお氣持が偲ばれて、とても有難く、うれしく思うのでございます。

兵庫県へおいで下さったことも数回ありました。最近先生の御元氣な間に一度御迎えたいと話合っていましたのにそれも叶わぬことになってしまいました。大阪へは度々来られましたのでその度毎に参上し先生のお話を拝聴するのを樂

しみに致しておりました。

先生は幼稚園の保育がいわゆる「おしつけ保育」「さずけ保育」であることにあきたりなさを感ぜられ、一人一人をよく守ること、このために小さいグループに分れること、「自由保育」の形態をとること、等を古くから称えられ幼児教育に一新生面をお開き下さいました。

戦後新教育が叫ばれ「一斉保育」か「自由保育」かと保育の方法やら形体を論ずるようになったとき、その昔すでに先生の御指導による「お茶の水附屬幼稚園」のこの保育を拝見させて頂いたことを思い合わせ、実に愉快に感じました。

又幼稚園で行っている「会集」についても、先生は一つの意見をもっておられました。先生は会集不要論者であられましたが、前記の「自由保育」を称えられる先生にしてこれは当然のことでありましょう。ただ先生が随分昔からこのことを叫ばれたその御卓見には全く敬服の他はございません。

先生は実に子供を守る護神とも言うべき方で、先生の子供に対する御真情は、御著「保育真諦」「子供讃歌」にはっきり現われております。

幼稚園と言うところが「人間形成」の大きな職場であり、子供達の真の幸福をただ一つの願いとして日夜努力している私達は、先生の偉大な御教えをすっかり身につけ更に精進の日をつづげたいと思っております。

先生の御冥福を祈るとともに、その御偉業に対し心からの感謝を捧げる次第でございます。（明石市立播陽幼稚園長）

## 故、倉橋先生の

## 思い出

玉川喜代子

△

——忘れもしない大正八年十一月十三日——チラチラチラ小雪降る東京駅頭の混雑の中に私共女高師の保育実習科の生徒達は、机を並べて倉橋先生御渡欧のための、お見送りの方の受付をして居りました。其の時の倉橋先生は、一分の隙もない、実にリユウとした、お姿で、大勢の見送り人に御挨拶をされ乍ら私の前まで進んで来られました。

青いおひげそりの後の、クリームの匂いが、今も、はっきり、私の触感の中にあります……

こんな事を或る時の、みどり会の席上でお話致しましたら